

## 2021年度 事業報告

施設名 グループホームきぬた

### 1 利用状況

事業種別： 重度身体障害者グループホーム 定員 5人 入居者数 5人

#### (1) 障害支援区分

区分6	4人	区分5	1人	区分4	0人	区分3以下	0人
計	5人						

#### (2) 障害の程度

		身体障害者手帳				計
		1級	2級	3~7級	なし	
愛 の 手 帳	1度					0人
	2度	1人				1人
	3~4度					0人
	なし	4人				4人
計		5人	0人	0人	0人	5人

#### (3) 年齢、性別

10代以下	0人	40代	0人	男性	5人
20代	0人	50代	4人		
30代	1人	60代以上	0人		
計			5人		
		女性	0人	計	5人
		計	5人		

## 2 事業実施状況

### (1) 活動・支援の内容

- 世田谷区グループホーム事業補助、及び同運営費補助に基づく、法外のグループホーム事業である。2003年4月に開設し、現在に至る。「利用者一人一人が安心して自分らしく過ごせる自分の居場所であること、将来の夢を語れる場であること」を運営の基本理念とし、個々の支援計画に基づき、平日日中は通所施設を利用し、介護は外部居宅介護事業所が入っている。入居者の生活管理や食事の提供、夜間の対応は、グループホームスタッフが行っている。
- 医療支援については、成城リハケア病院と契約を個々に結び、定期的な訪問診療のほか、急病の時の夜間休日を問わない往診ができる体制になっている。
- 今年度もコロナ禍により、旅行や行事は中止が多く、自由に外出もできなかったが、福祉タクシーを利用し、人混みを避けた外出など感染防止策を取りながら工夫して楽しむことができた。
- 入居者の自治を目指して、結成した入居者の会（ドーナツの会）を今年度3回実施し、個々の近況やグループホーム開所20周年に向けた話し合いなどを重ねた。5月の会では、地域の団体の交流会にオンラインで参加、台東区にできたグループホームをオンライン見学し、地域の方たちと理想の施設について討論した。

### (2) 地域交流

- 法人格砧町自治会の活動に協力している。今年度は10月に地域防災訓練に参加、「要援護者救護ブース」を担当し、車いすの操作方法、介護方法などを参加者に説明した。また、12月には

- 恒例の「イルミネーションパトロール」に参加し、入居者がサンタクロースとトナカイになってパトロールする地域の子供たちにお菓子を配布するなど、地域住民との交流が進んでいる。
- ・ 砧町自治会の夜間に行われる防犯パトロールに職員が協力していたが、「入居者も地域に貢献しよう」と入居者の会で参加を決定し、10月から一人ずつ職員・ヘルパーとともに参加している（新型コロナウイルスの影響と冬季間は中止していたが4月から再開予定）。
  - ・ 更に、自治会より「防災食についての研修をきぬたで行いたい」との申し入れがあった。感染拡大により今年度は具体化できなかったが、来年度実施する予定でいる。

### (3) 家族、関係機関との連携等

- ・ 『きぬたドーナツ通信』を4回発行し、グループホームきぬたの様子や入居者の近況を家族や関係者に伝えた。また、ホームページでも一部公開し、入居者の生活の様子を発信した。
- ・ 感染防止策を取りながら、家族会を4回実施、入居者の普段の様子と運営状況、特に新型コロナウイルス対応マニュアルについて報告し、ご家族と意見交換を行った。参加できない方は、オンラインで参加するなど工夫した。また、3月の家族会では、成年後見相談センターヒルフェの方に来ていただき、成年後見の資料をご家族に配布した。
- ・ チームケアのために、当ホーム入居者に関わるヘルパー事業所によるミーティングを2月実施し、入居者の状況とグループホームの運営状況を共有した。とりわけ今年度は、新型コロナウイルス対応について事前にアンケートを取り、入居者が感染した場合の具体的な対応マニュアルを事業所間で議論・共有した。

### (4) ボランティアや実習生の受入れ

- ・ 入居者の点字学習を補佐するボランティアに、2名交代で毎週来ていただいた。新型コロナウイルスの感染拡大時は回数を減らすなど、お互いに無理のないよう配慮した。
- ・ 日曜日の夕食は、入居者の希望や季節のメニューを取り入れて作っているが、7月より栄養士の学生が月に1~2回手伝ってくれるようになり、季節感あふれる食事は入居者に好評である。
- ・ 感染に気をつけながら、4法人、1事業所、1当事者の見学を受け入れた。特に、これからグループホーム建設を予定している法人からの見学が多く、きぬたの特徴をアピールするとともに、今後の協力関係を結ぶことができた。

### (5) 危機管理

- ・ 引き続き感染防止に努めるとともに、今年度『新型コロナウイルス対応マニュアル（事業継続計画）』を作成し、職員・ヘルパー事業所と共有、ご家族にも説明した。また、世田谷区感染予防アドバイザーに来所していただき、具体的な感染予防のアドバイスを得ることができた。
- ・ 1月、スタッフに陽性者が出た際は、対応マニュアルに沿って対応、即座に関係者に連絡するとともに、早い段階で入居者全員のPCR検査を自費で行い、陰性結果を得て安全を確認することができた。ヘルパー介護事業所、世田谷区、保健所、通所施設、医療機関などと連携して対応し、感染を拡げることはなかった。

### (6) 職員研修の実施

- ・ 4~6月に「入居者の心とからだについて考える勉強会（ケーススタディ）」を3回実施、入居者一人ひとりの障害とからだの特徴、緊張を和らげる動かし方を、理学療法士の実演と参加者の実技を交えて学び合った。
- ・ 勉強会2巡目は課題を「コミュニケーション」にし、9月と12月に入居者ひとりひとりの障害の特性とコミュニケーションの取り方について学習を深めた。

- ・ 2～3月、高次脳機能障害についての世田谷人材育成研修センターの動画研修を職員6名が視聴した。また3月、世田谷高次脳機能障害サポーター研修に入居者の事例を報告し、職員3名・ヘルパー1名で参加した。障害の特性とコミュニケーション、意思決定支援などについて検討、アドバイスを得ることができた。

## (7) その他（苦情・事故等）

- 【事故】2件（世田谷区に報告）
- ・ 入居の腕にあざを発見、原因を特定できなかったが、入浴方法、リフトのスリングシート、トランス方法の見直しを行った。
  - ・ 入居者を介護中、ヘルパーが転倒し、胸椎を圧迫骨折した。入居者にけがはなかったが、トランス方法や協力体制の見直しを行った。
- 【ヒヤリハット事例】14件（誤薬、窓の閉め忘れ、鍵の閉め忘れ、受給者証の一時行方不明、自宅帰宅日の通所先への連絡ミスなど）業務内容の再確認、ダブルチェック、証書持ち出し記録の周知などを徹底するようにした。

## 3 重点課題と取り組み・成果

2021年度は以下を重点課題として挙げ、取り組んだ。

### ① 感染予防と入居者の健康維持

- 今年度『新型コロナ対応マニュアル（事業継続計画）』を作成し、関係者と共有した。とりわけ入居者が陽性になった場合を想定して、ヘルパー事業所との協力体制を準備することができた。

入居者に異常があったときにすぐに通院したり、往診医で対応することで、大きな疾病や入院に至るなどのケースはなかったが、原因が特定できない大きなあざの発見や介護中のヘルパーの骨折など、年度末に事故が相次いだ。どちらも入居者の加齢により大きく身体が変化してきていることや介助方法がヘルパー個々で違うことなどが関係していると思われる、介助方法やトランスの方法の見直しを行っている。

### ② グループホームきぬたの独自性の発信

- 『きぬたドーナツ通信』やホームページでの発信、また見学者に対しても、積極的に独自性をアピールした。昨年から引き続き、入居者それぞれの『生い立ちの記』を映像で作成してきたが、5人分をまとめてDVDにしてご家族や関係者に配布した。

また、砧町自治会の活動に協力することで地域に認知される存在となっている。地域防災訓練への参加や、「自分達にもできることはないか」と始めた防犯パトロールへの参加など、入居者も積極的に地域に関わることができた。

### ③ 入居者のケーススタディの積み上げによる支援の質的向上

- 昨年に引き続き「入居者のからだについて考える勉強会（ケーススタディ）」を理学療法士の協力を得て実施、入居者・職員・ヘルパーとともに障害の理解や支援の共有を図った。2巡目は「コミュニケーション」をテーマにして、かかわりの深いヘルパーを講師に、それぞれの特性や成育歴を踏まえて、どのように分かるように伝えるか、本人の言葉（意志）を聞き取るかを実技を交えて学び合った。3月には、世田谷高次脳機能障害サポーター研修に入居者の事例を報告し、検討することができた。日頃のかかわりで感じていることや困っていることを事前にヘルパー・職員から聞き取り報告、障害の特性とコミュニケーションの方法、意思決定支援などについてアドバイスを受け、大変参考になった。次年度はこれを支援者間で共有し、いかに生活の中で実践していくかが課題となっている。